
大和川河川堺市避難訓練 実験を視察して

蔡 垂功

避難訓練実験の概要

-
- 日程:平成20年3月20日(木・祝) 13:30~17:00
 - 会場:堺市 浅香山校区地域会館・浅香山小学校
⇒住民約30名が参加
 - 参加者:藤吉洋一郎(大妻女子大学)
天野 篤(アジア航測(株)(独)防災科学技術研究所)
加藤宣幸((財)国土技術研究センター)
谷原和憲(日本テレビ放送網(株))
中村信郎(日本災害情報学会事務局)
水上知之(三重県)
蔡 垂功(大阪市)
-

住民アンケートの回答から①

- ・地デジ対応テレビの保有率→比較的低い
⇒薄型テレビを持っていても、「地デジ」の認識なし？



「テレビ」としてのみ使っているので、地デジ特有の新機能(データ放送等)をまったく活用できていない？
⇒今後は地デジの普及とあわせて、データ放送としての使い方についての説明(災害情報等のメリットを含めて)も不可欠

住民アンケートの回答から②

- ・水位情報(「はん濫注意水位」、「避難判断水位」、「はん濫危険水位」)による避難のタイミング
⇒それぞれの水位で回答者数に大きな差異はなし
(いずれの水位の場合も、約30名のうち4~5名が挙手)

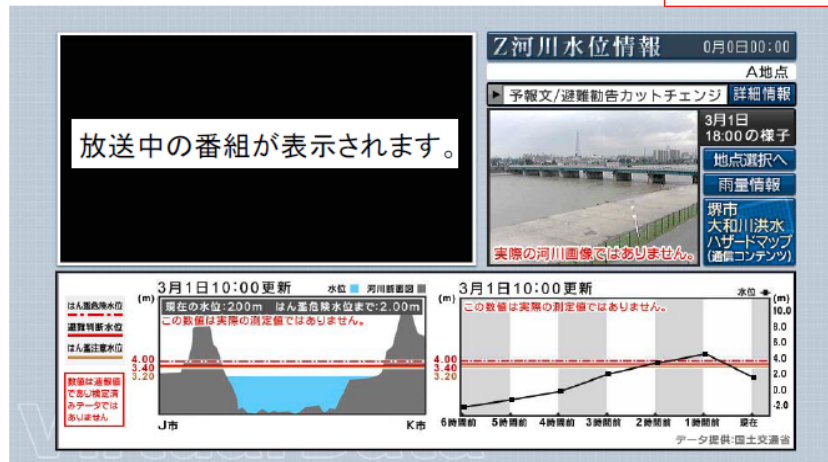


そもそも用語についての理解不十分が原因？
→今回の参加者は防災に比較的関心が高い
⇒あまり関心が高くない参加者の場合には、認知度がさらに低くなる？

サンプル画面にみるコンテンツ

水位情報画面（放送）

サンプル画面



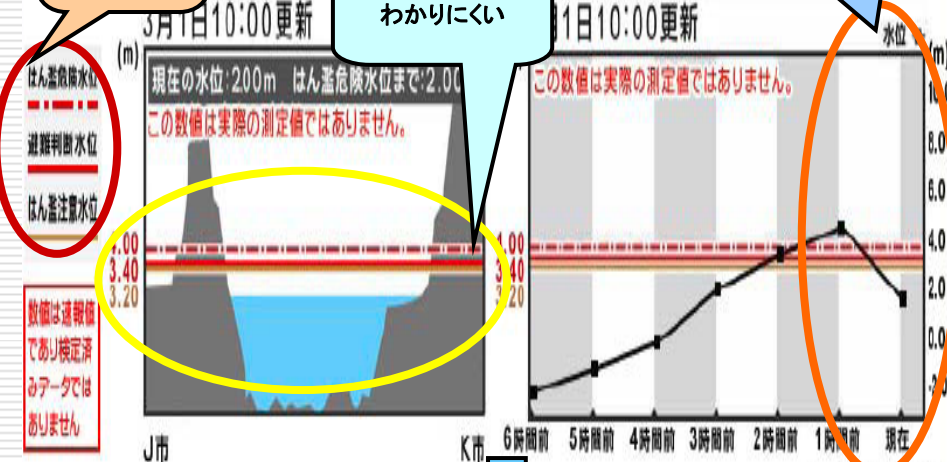
出典：国土交通省近畿地方整備局記者発表資料（平成20年3月19日）

コンテンツの課題

- ・用語説明がない
- ・避難情報との関連は？

- ・水位の深さの間隔が2メートルと大きい
⇒変化がわかりにくい？

水位ラインの色がわかりにくい



視聴者にわかりやすく、避難行動に直接結びつくような表現が必要

実際のテレビ画面から

実際の放送画面

さまざまなデータを一覧できるが、どれに注目すべきかかえってぼやけてしまう

実際のワンセグ画面から

- 「はん濫危険水位」のみが水位の基準になっており、自主避難への目安としての活用が可能か
⇒事前の用語説明は不可欠
- 実際の河川カメラを見ることにより、データだけでなく、現状把握が可能に

より使いやすい地デジに向けて

- 参加者には高齢者が多く、操作方法の説明の際にも多数の方から担当者に質問が行われた



- 高齢者にも使いやすい地デジへ
 - ⇒ex) ・リモコンの特定のボタンを押し続けると災害情報が回転式で切り替わる
 - ・「やさしい日本語」を活用した情報提供（用語説明やわかりやすい広報も）